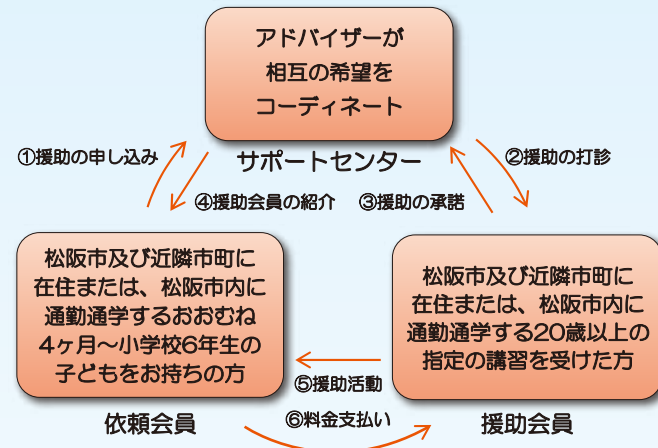




●サポート内容

- ・保育園や学校・学童保育への送迎および一時的な預かりなど
- ・軽い病児、病後児および緊急時の預かりなど
- ・宿泊預かり



●利用料金

	通 常	緊急・病児
平日7:00～19:00	700円	1,000円
平日の上記以外の時間 および土、日、祝日	800円	1,200円
年末年始(12/29～1/3)	1,000円	1,400円

宿泊の利用料金(1回あたり)

22:00～6:00(連続8時間)	5,000円
年末年始 22:00～6:00(12/29～1/3)	7,000円

●利用するには

- ①まずはお電話の上、当センターまでお越しください。入会申込書に必要事項を記入し、登録してください(登録は無料です)。
- ②依頼会員とその条件に合う援助会員(2～3名)が、お子さんを交え事前の顔合わせをします。
- ①②を済ませておけば、依頼をすることができ、いざというときにも安心です。

援助活動中の万が一の事故に備え、地域子育て支援事業補償保険に加入しています。

会員の声

ファミリーサポートセンターさんとのお付き合いは息子が0歳の時、「保育園のお迎えと自宅預かり」をお願いしたのが始まりでした。

核家族でひとりっ子の息子にとって同じ男の子を育てている先輩ママには、息子を兄弟のように…、また年配の世代の方には、孫のように接していただき…、沢山可愛がっていただきました。おかげ様で、安心して仕事を続ける事ができ、心に余裕ある子育てにつながっていると感謝しております!

(依頼会員A・K)

「咲いた 咲いた チューリップの花が…」と依頼されたお子さんと唄っているときは、何もかも忘れて唄っている自分を発見します。数年前、大阪から転入しファミリーサポートの事を知りました。依頼を受けお子さんと過ごす時間は楽しく、次の依頼を待つようになりました。依頼会員さんに喜んでいただき、これからも地域の方々と解け合い助け合い、お子さんの成長を楽しみに続けさせてもらいたいと思っています。

(援助会員T・U)

まつさかファミリーサポートセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1階
(特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター内)

TEL/FAX 0598-20-8246

E-mail mfsc@mknpo.jp

ホームページ <http://www.mknpo.jp/mfsc/>

開所時間 月曜～金曜 8:30～19:00

駐車場は、カリヨンパーキングをご利用ください。



ファミサポ ホットタイム

発行元：まつさかファミリーサポートセンター

<交流会>

日 時：2017年11月26日(日)10:00～12:00
会 場：松阪市花岡地区市民センター
講 師：堀川 美子さん(子育て支援アドバイザー)
内 容：親子でのあそび 10:00～11:00
まなび 11:00～12:00
参加者：24名 (大人14名 子ども10名)



今回は、最初の1時間を親子でわらべうたを唄ったり、絵本・紙芝居を見たり、たっぷり触れ合って遊び楽しい時間を過ごしました。そのあとお母さんと別れてサポーターと遊んでお迎えを待っていました。子どもたちは、お母さんとしっかりと遊んだ後なので誰も泣くことなく元気に遊んでいました。堀川さんのお話は、「子どもの主体」を大切に話を十分に聴くことで子どもの自己肯定感が高まることや、お母さん自身も自分を「まるごとOKする」ことが大切で、頑張らなくてもいいよというお話でした。最後にお母さんにむけて「かしの木のこもりうた」を読んでもいただき、心に染み入り泣いている方もありました。子どももお母さんもゆったりした時間を過ごすことができました。



まつさかファミリーサポートセンターは(特)松阪子どもNPOセンターが松阪市より委託を受けて運営しています



2017年度の活動報告



援助内容別活動件数(693件)

援助内容別活動件数(693件)	(件)
保育施設までの送迎	411
子どもの習い事等の援助	100
買い物等外出の際の子どもの預かり	87
保育施設の保育開始時や保育終了後の子どもの預かり	26
保育者等の就労の場合援助	16
学校の放課後の子どもの預かり	15
放課後児童クラブ終了の子どもの預かり	13
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	9
放課後児童クラブの迎え及び援助	4
保育施設、病児病後児保育施設自宅などの間の送迎	4
保護者等の病気その他急用の場合の援助	4
宿泊を伴う預かり	2
学校の迎え及び援助	2
合計	693

今年度は会員数が584名からのスタートでした。会員数が600名を切ったのは、ここ数年なかったので減少した理由を分析し、広報活動に力を入れました。毎月地域の健康センターに行き、健診に来ているお母さんに説明とアピールをしました。その結果、入会が増え養成講座の受講も増えました。来年度に向けて、広報番組を松阪市行政チャンネルで制作していただきました。

今年度は活動件数が693件でした。ここ数年は活動件数が減少傾向です。それは継続的な依頼が少なくなった結果と思われます。しかし12月頃から入会が増え、マッチングも今年度は99回ありました。1名の依頼会員につき3名程の援助会員がマッチングをするので、のべ300名の援助会員が必要になり、援助会員の中には多数の依頼会員とマッチングしてもらっている方がいます。依頼内容には病児病後児もたくさんあるのですが、制約もあるので活動には繋がっていません。年々、依頼も多様化してきていますが、子どもを主体として、より良い支援をしていきたいと思います。

依頼会員 357名

援助会員 229名

両方会員 48名

合計 634名

会員数(2018年3月末現在)

ステップアップ講座

日 時：9月30日(土)14:00～15:30
会 場：松阪市市民活動センター 大会議室
講 師：田部 眞樹子さん (特)三重県子どもNPOサポートセンター理事長
参加者：会員 26名 一般 18名 計44名
テーマ：子どもの権利とは

子どもが主体であるということを深く学ぶために開催しました。子育て中の方や子ども支援者にも聞いてほしいという思いから一般にも公開しました。その結果、学童指導員の方も10名程、参加していただきました。

子どもは遊びや勉強で失敗した時に怒られるのではなく、気持ちを聴いてもらおうと自分で考えられるようになります。失敗が保障されていると次に繋がり、体験が積み上がり自分で決めて自分で責任を持てるようになります。参加者からは「子どもの権利について再認識し対等に子どもと向かい合うことが大切だと感じました」などたくさんの感想が寄せられました。



平成29年度

援助会員養成講座

※第1回援助会員養成講座
※第2回援助会員養成講座

会場：嬉野保健センター・嬉野社会福祉センター
会場：松阪市産業振興センター

参加者：40名
参加者：47名

【保育サポーターの役割と心得】



(特)松阪子どもNPOセンター 理事長

塩谷 明美

育児サポーターとして子育ての環境や地域社会が変化していることを知り、子どもと親を受けとめながら理解し関わることの大切さを学びます。

【子どもの遊び】

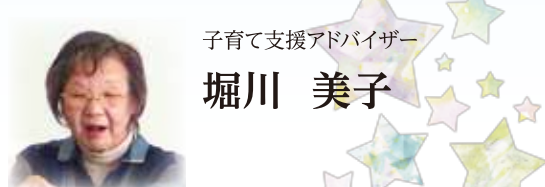


ユマニテク短期大学
幼児保育学科 准教授

山野 栄子

子どもにとって、あそびは学びである。あそびをとおして成長し寄り添うことを学びます。

【保育の心】



子育て支援アドバイザー

堀川 美子

子どもの成長の過程とその月齢・年齢に応じた関わりを学び、人とつながる子育てのお話。

【子どもの栄養と食生活】



元三重中京大学食物栄養学科 教授

馬場 啓子

子どもの心と身体を育む食生活の大切さと、大人の責任として良い食環境づくりを学びます。

【小児看護】



(株)ジェネラス訪問看護ステーション
はたるいせ 管理者

岡田 まり

子どもの変化をとらえるには「あれ?いつもと何かが違うな…」と感知することが大切。「見る」ことで(観察)が始まります。子どもの病気やけがへの対処方法のお話。

【子どもの心の発達と障害について】



高田短期大学子ども学科 学科長

千草 篤磨

子どもの心と脳の発達や、自閉症・ADHDなど様々な障害についてのお話。人間は、心も身体もその子どもの速度で発達していきます。

【子どもの発育と病気】



イワサ小児科 理事長

岩佐 敏秋

子どもの身体の発育についてと、さまざまな病気やその症状についてのお話。病院へ行くのか、しばらく様子を見るのか等を聞き対処の仕方を学びます。

【松阪市の子育て支援サービスの現状】



松阪市健康福祉部こども局こども支援課
こども担当主幹兼こども係長

松田 武己

松阪市の子育て支援サービスについての説明と現状。

【子どもの事故と安全・幼児救急法】



日本赤十字社三重県支部

富内 直美

0才児、5才児の子どもの模型を使った救命救急法の実践。けがや誤飲などの対処法を知る。身近なハンカチやストッキングを使った応急処置の方法の実践。

【乳児の暮らしとケア】



松阪市保健師

赤ちゃんには成長、月齢にあった接し方が必要で、愛情を持った目で観察し接していくことが大切。母親がストレスをためないようにすることも大事。おむつ替えや粉ミルクの調乳の実践。